

『古典探究（古文編）』実践 ルーブリック評価例

実践 第一部 芸能の中に生きる古典文学を味わおう

1. 学習指導の目標

思考力・判断力・表現力等	A 読むこと	ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。 イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。 ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。 エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。 オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。 カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。 キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。 ク 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。
--------------	--------	---

パフォーマンス課題

『平家物語』と能を読み比べよう

①『平家物語』では藤原俊成が、忠度の和歌をどのようにして『千載集』に入集させたのか、まとめよう。またその顛末が、能「忠度」のシテである忠度にはどのように捉えられているか、考えてみよう。

②能「忠度」では、筋に結びつけられた和歌によって、岡部六弥太が討った相手は忠度だったと分かる。このエピソードは、『平家物語』の巻九「忠度の最期」をもとにしている。忠度の和歌は、能「忠度」ではどのように生かされているのか、調べてみよう。

③能「忠度」では、忠度と桜はどのように結び合い、イメージを広げているか、話し合ってみよう。

2. ルーブリック表

評価の観点	
評価のレベル	
A 十分満足できる	桜が関わる記述を抜き出し、その記述の意味するところを的確に捉え、桜のイメージと忠度のイメージを重ね合わせた上で解釈することができる。
B 満足できる	桜が関わる記述を抜き出し、その記述の意味するところを捉え、解釈することができる。
C 努力を要する	桜が関わる記述を抜き出しているが、その記述の意味するところを的確に捉えることができず、解釈が不十分である。

【評価基準の考え方】

\* 「レッスン③」の活動を中心に作成した。「忠度」における「桜（花）」に関する記述を抜き出し、その記述の意味を捉えられること、桜のイメージと忠度のイメージを重ね合わせることができること、の二点を重視した。